

第36回姫路市芸術文化賞9人・団体発表

産経新聞

大賞に「明珍火箸」

鍛冶師・明珍宗理さん

姫路市は27日、芸術や文化の振興に貢献した同市などにゆかりのある個人や団体を表彰する「第36回姫路市芸術文化賞」を受賞した9人・団体を発表した。市内の芸術団体代表や画家、音楽家ら12人の選考委員が創作活動や業績、作品を審議した結果、最高賞の大賞には、澄んだ音色を奏でる県伝統工芸品「明珍火箸」の製作者で明珍本舗第52代当主の鍛冶師、明珍宗理さん(71)が選ばれた。

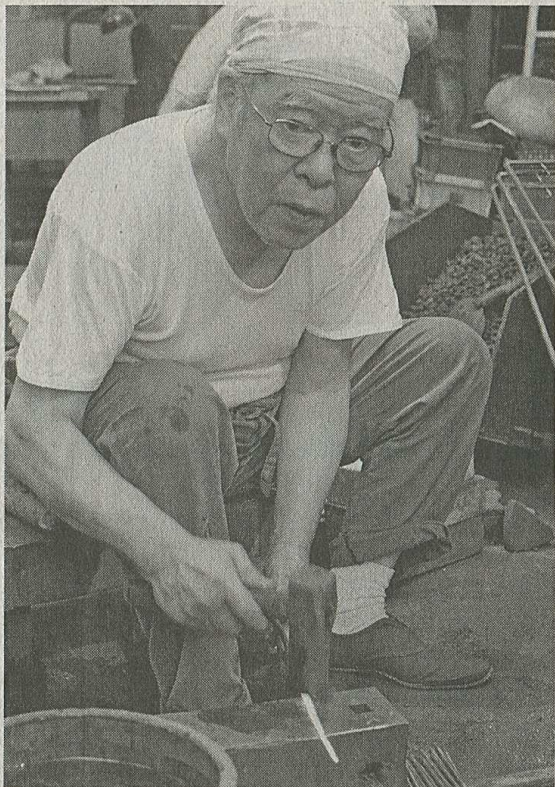
明珍さんは火箸を現代のライフスタイルに合わせた風鈴に進化させるなど工夫を重ねたほか、姫路城の「平成の大修理」では江戸時代の金具を再現して寄付するなど大きく貢献。平成23年度「現代の名工」にも認定された。明珍さんは「家族や関係者などみなさまに火箸の魅力をご理解し

ていただいたおかげ」などと受賞を喜んだ。

表彰式は3月20日、姫路キヤッスルホテル(同市三左衛門堀西の町)で開かれる「文化交流フェスティバル」で行

……………
姫路市芸術文化賞の大賞を受賞した明珍宗理さん

……………
姫路市伊伝居上土町



……………
われる。

◇ 他の受賞者は次の通り。

(敬称略)

【芸術文化賞】井上久男(82) 姫路市、同人誌編集主幹。昭和44年以降休刊状態の同人誌「姫路文学」を平成7年に復刊。刊行を続け、姫路の文芸を全国に発信▽吟道賀堂流繪本部 同、吟剣詩舞。姫路藩校の詩吟を継承し、平成26年に創流80年を迎える▽田中章文(60) 同、能楽師。自宅に能楽「秀行社」を創立。播磨国絵社での三ツ山大祭で「半菰」を演じるなど伝統文化の振興に大きく貢献▽吉田洋三(82) 同、木版画家。姫路を拠点に創作活動を続け、美術振興に貢献。

……………
【芸術文化年度賞】埴岡真弓(59) 同、郷土史家。身近な場所に潜む歴史の魅力を分かりやすく解説。広い視野と丁寧な現地踏査、資料研究で郷土文化を振興。

……………
【芸術文化奨励賞】赤松省吾(57) 同、神河町、陶芸家。書写の里・美術工芸館への出展や小・中学生向けなどの陶芸教室の開催、後進の育成も図る▽圓山記念日本工芸美術館 姫路市。姫路城の「平成の大修理」で装物に漆を施して寄付するなど芸術文化振興に大きく貢献▽長田真実(26) ドイツ在住、オルガン奏者。バルナソスホールで行われた講座をきっかけにオルガンを始め、武蔵野国際オルガンコンクールで2位入賞などの実績。